

病害虫発生予察地区報 第4号

—— 病害虫情報 ——

病害虫名：クロゲハナアザミウマ

学名：*Thrips nigropilosus* Uzel

対象作物：きく

1 情報の内容

- (1) 本年7月下旬に、東信地域の露地栽培のきくにおいて、葉にかすり状の小白斑が生じる被害が発生した。葉上には多数のアザミウマ類が寄生し、これを採集し、県野菜花き試験場において同定したところ、クロゲハナアザミウマと同定された。
- (2) 本種は全世界の温帯域に広く分布し、日本では全国に生息している。
- (3) きくにおけるアザミウマ類の被害は、主にミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマによる花卉の脱色、白斑、汚れなどが多い。しかし、近年、本種による葉の被害が各県から報告されており（令和4年岩手県、令和6年島根県、令和7年奈良県等）、県内においても、本種による被害の増加が警戒される。

2 対象地域

県下全域のきく生産地

3 形態

体長は、雌成虫が1.2～1.3mm、雄成虫が0.9～1.0mm。体色は全体に黄色で、前胸と有翅胸節に褐色斑がある（写真1）。触角は7節で、第1節のみが淡色、その他の節は褐色～黒色。前胸背板前縁の刺毛や複眼後方刺毛は目立たず、前胸背板後縁角刺毛は長く目立つ。雌成虫には長翅型と短翅型があり、雄成虫は短翅型のみ。

4 生態及び被害

- (1) 本種は、きく、レタス、ウリ科、ナス科などの多くの作物を加害する。卵は植物組織に産み込まれ、幼虫、成虫は主に葉裏に生息し、蛹化は植物下の土壌表面や落ち葉の中で行われる。
- (2) きくでは、葉、花ともに食害し、かすり状の小白斑を生じる。特に、葉裏の被害が多い（写真2、写真3）。
- (3) 本種による病原体の媒介は確認されていない。

5 防除対策

- (1) 本種による白いかすり状の食害痕は、ハダニ類の被害と似ているため、食害痕を見つけた時

には加害種をよく確認する。

- (2) 薬剤はアザミウマ類に登録のある薬剤を用いる。本種は、葉裏に多く寄生しているため、薬剤散布は、薬剤が葉裏まで十分にかかるように、丁寧に行う。
- (3) 農薬を使用する際は、必ず農薬ラベルの記載事項を確認し使用する。なお、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統が異なる薬剤によるローテーション散布を行う。



写真1 クロゲハナアザミウマの成虫
(「長野県野菜花き試験場」提供)



写真2 葉裏の被害



写真3 葉表の被害

(問合せ先)

担 当 病虫害防除部 近藤、若林
電 話 026-248-6471
ファクシミリ 026-248-6473
電子メール bojo@pref.nagano.lg.jp